生徒が自信を持ち志望校を目指す受験指導を、データを基に行う

兵庫県立須磨東高校

受験生のやる気を最後まで引っ張って、志望校に合格させてあげたいというのは、教師共通の願いであろう。とは言え、3年生の受験生活は山あり谷ありの世界。模試の合否判定でDやEが出ただけで落ち込んだり、その大学をあきらめる生徒も出てくる。教師が「DやEでも努力すれば合格できる。がんばれ」と励まし、指導する際、それを裏打ちする客観的データがあると説得力が増す。須磨東高校では以前から成績と合否の相関関係など高校独自の資料を作り、教師による進路検討会や進路指導に利用してきた。

「しかし、うちの高校のデータだけなのでサンプリングの数が少なく、信頼性がまだ不十分でした。また、教師が手書きで作るのでデータの表やグラフ化が難しく、一目ではなかなか分かりにくいという問題点もありました」（進路指導部長・宮崎皎宏先生）

また、高校で累積してきたデータ、そして教師の長年の経験が、受験環境の急激な変化によって現在の状況に当てはまらない部分も出てきたと言う。

「大学の難易度が一時は年々高くなっていましたが、最近は少子化の影響などで易化の傾向にあります。そうすると今までのデータや、『この問題ができないようなら、○○大は難しい』という古くからの教師の勘が通用しにくくなります」（学年進路指導係・小林利成先生）

そのため、「入試の現況を踏まえた、タイムリーな情報が必要になっていました」（学年進路指導係・横田昌幸先生）

客観的データを基に指導

須磨東高校では以前から「FINE system」を利用していたが、昨年インターネット対応の「FINE system」を採用、3年担任への研修を行った後、活用度がより高くなった。「FINE system」には合否診断、成績推移、得意・不得意科目の把握、職業・学問情報、大学生の体験談、「COMPASS（志望校検索システム）」、学習・進路指導に必要な様々な情報が盛り込まれている。

昨年度、進路指導部がこのシステムから情報を引き出して資料を作り、それを基に教師による進路検討会を行った。資料に盛り込んだ内容は、3年生の中からピックアップした生徒についての模試の成績推移表、志望大可能性判定推移や各大学の志望者度数分布など。

「それぞれの生徒について検討する中から、このくらいの成績ならこのくらいの大学は大丈夫という共通認識が、教師の間にできたことが非常に大きいと思います。他の生徒についても、それを応用することで一貫した基準の下に進路指導ができました」（横田先生）

「合否判定がDやEでも最終的には合格する生徒がいることが、合否の度数分布で明確になったことで、教師も自信を持って生徒に志望校を目指させる指導ができました」（宮崎先生）

生徒に自信を持たせる

力があっても自信のない生徒に度数分布などを見せて「合格と不合格の差はこの程度でしかない。きみよりもっと成績の低い生徒だって、きみの志望校に受かっているじゃないか」と説明すれば、生徒も信頼できる客観的データだけに自分に自信を持ち、意欲を奮い立たせることになる。たとえ7月や10月の時点で志望校に届かなくても、DやE判定の生徒も合格していることを知れば、本番までの残された時間を志を高く持ってがんばる気になる。

「残りの半年、3か月を生徒がどういう気持ちで勉強に取り組むかは、受験の結果を大きく左右します。可能性を示す客観的データを見せることは非常に有効でした」（横田先生）

面談用のパソコンには「COMPASS」がインストールされており、放課後などに生徒が相談に来たときに、職員室や進路指導室のパソコンを使って生徒と共に画面を見ながらのマンツーマンでの指導に使ったという。また、パソコンは三者面談の場にも活用した。

「昨年度は保護者の方から面談をして欲しいという要望が多く、これほどパソコンがフル回転した年はありませんでした」（横田先生）

「リアルタイムの充実したデータを目の前に広げることで教師、生徒、そして保護者の三者が、志望校合格のためにこれから何をすべきかを共有化することができました」（小林先生）

須磨東高校では進路指導部のメンバーも2、3年で変わることが多い。その場合でも「パソコン内のデータを使えば、新しく進路指導部に来た先生にスムーズに引き継ぎができる」と小林先生は言う。

「どの先生が進路指導部に来ても同じソフトを使うので、データを共有化でき、円滑に仕事をすることができるのです。そして、その分のエネルギーを生徒と接する進路指導や学習指導に振り向けたいと思います」（小林先生）

主要大学合格者が急増

生徒に意欲を持たせる指導を心掛ける一方、意欲が高まってきた生徒に対して、学習指導では基本を大切にする指導、小さなことを積み上げる指導に重点を置いている。

「うちの高校の事情もあるかも知れませんが、成績上位者と下位者の実力はそんなに変わらないんですね。私が教えている国語で生徒の答案を分析すると、漢字の読み書きとか品詞の区別とか、そういう小さなことの積み上げが点数の差になっているんです。逆に言えば、その程度のことをがんばれば何とかなるんです。それを生徒に納得させながら学習に取り組ませています」（小林先生）

進路指導と学習指導がうまくかみ合った結果、須磨東高校は'99年度入試で、関西地区の主要5私立大合格者数が前年度比約1・5倍という飛躍的な伸びを見せ、国公立大合格者数も増加した。

「昨年度学年主任を務め、今年度異動された平岡先生が『やればできる』を合い言葉に学年を引っ張ってきましたが、それが実を結びました」（横田先生）

昨年度は面談でのパソコンの活用、そして今年度は生徒用に40台を導入。進路指導、学習指導にそれらをどう使うかが、今後の課題だと言う。

「現在検討中ですが、生徒自身がパソコンを使って自分で進路の情報を収集したり、学習面の課題を見つけられるようにできたら、と思っています」（宮崎先生）

宮崎皎宏（あきひろ）
物理担当。同校に赴任して15年目。
昨年度から進路指導部長。
教師も生徒も納得できる資料の作成を心掛けている。

横田昌幸
地歴公民担当。
同校に赴任して6年目。
赴任以来、学年進路指導係を務める。
昨年度は3年生、今年度は1年生の担任。

小林利成
国語担当。
同校に赴任して9年目。
昨年度は3年生、今年度は1年生を担任し、学年進路指導係を務める。

兵庫県立須磨東高校